

研究名：持続脳波モニタリングによる小児心停止蘇生後症候群の神経学的予後予測

1．研究の目的

小児が予期せぬ心停止から蘇生されたとき、臨床現場では治療選択やご家族への説明のために発症後早期に中長期的な神経学的予後を予測することが求められます。一方で、小児の心停止蘇生後症候群では頭部画像の所見から予想する以上に回復する方がおられ、成人に比して神経学的予後予測が難しいことが知られています。そのような中で、持続脳波モニタリングは短期の神経学的予後予測に有効な検査の1つであることが証明されていますが、日本からの研究はほとんどありません。当院のPICUでは重症な患者さんにおいて積極的に持続脳波モニタリングを行ない、日々神経内科医が判読し、多数の診療科で協力して診療を行なっています。本研究の目的は、日本における持続脳波モニタリングによる心停止蘇生後症候群の予後予測を行うことです。副次的な目標として、長期神経学的予後予測における持続脳波モニタリングの役割を探索的に検討します。解析結果をまとめ、学会発表、論文投稿を行い、将来的には小児心停止蘇生後症候群ガイドラインへの収載を目的としています。

2．研究の方法

研究対象：当センターにて2017年4月～2022年9月までに当院を受診した患者様で、「心停止」「蘇生に成功した心停止」「低酸素性虚血性脳症」と診断された方を対象にしています。

研究期間：倫理審査委員会承認後2022年12月から2024年3月までです。

研究方法：電子診療録を用いた観察研究です。患者様への介入や侵襲はありません。

3．研究に用いる情報の種類

研究に用いる情報の種類としては、性別、年齢、病歴、臨床所見、検査データ、治療データ等です。

患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

4．情報の公表

情報は公開せず、研究内容は学会発表や学术论文の形で公表する予定です。

5．研究実施機関

6 . お問合せ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、**2023年3月31日までに**下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター 神経内科 専門修練医（担当者氏名）大橋 瑛梨
住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
電話：03-3416-0181（内線：7316）

研究責任者：

国立成育医療研究センター 神経内科 大橋 瑛梨（責任者氏名）